

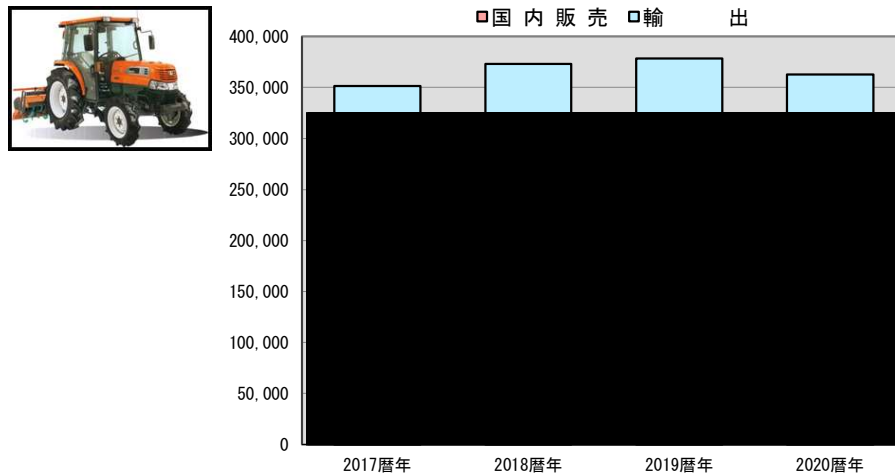
1. トラクター(乗用タイプ)

※最新の調査活動の結果、過去の市場規模やメーカーの実績数値、シェアに誤りがあった場合、情報精度を高めるために修正する場合がございます。ご理解のほど宜しくお願い申し上げます。

1. マーケット規模及び推移

	2017暦年		2018暦年		2019暦年		2020暦年	
	台数	対前年比	台数	対前年比	台数	対前年比	台数	対前年比
国内販売								
輸出								
合計 (総販売実績)								

注) 実績はメーカー出荷ベースによる。以下同様



【当該商品に関して】

- トラクターは、農耕用を主体とした乗用タイプの機種であり、各種作業機を牽引ないしは駆動して、耕耘・碎土・施肥・播種・防除、中耕、除草、収穫、運搬等の農作業を一般的に行う。なお、対象外である歩行移動型のトラクターは、管理機、ティラー、耕耘機などと称され、業界ではトラクター（乗用）と分類する為に歩行トラクターと総称している。
- トラクターは機種ラインナップの幅が広く、エンジン出力で10psクラスから600psクラス機種まで商品化されている。日本市場の場合、需要の主体は水田用であり、エンジン出力で100ps以下クラス機種までのニーズが多い。

2. 商品メーカー別2020暦年販売実績

《国内販売》

企業名	2020暦年国内販売	
	台数	シェア
クボタ		
ヤンマー		
井関農機		
三菱マヒンドラ農機		
その他企業		
合計		

《輸出》

企業名	2020暦年輸出販売	
	台数	シェア
クボタ		
その他企業		
合計		

- 注1) OEM供給実績含む
 2) 各社の実績には輸入機の実績も含む。
 3) 日系メーカー海外生産分を含む

【国内販売】

- 2020暦年に関しては対前年比25.3%減と非常に低調であった。主に、コロナ禍による供給不足の影響が大きい。
- 自動運転ないしは無人トラクターは、2020暦年から本格的販売をスタートさせたがコロナ禍の影響で販売ペースが鈍化している。
- 2019暦年、2020暦年のエンジン出力クラス別実績は、下表の通りである。

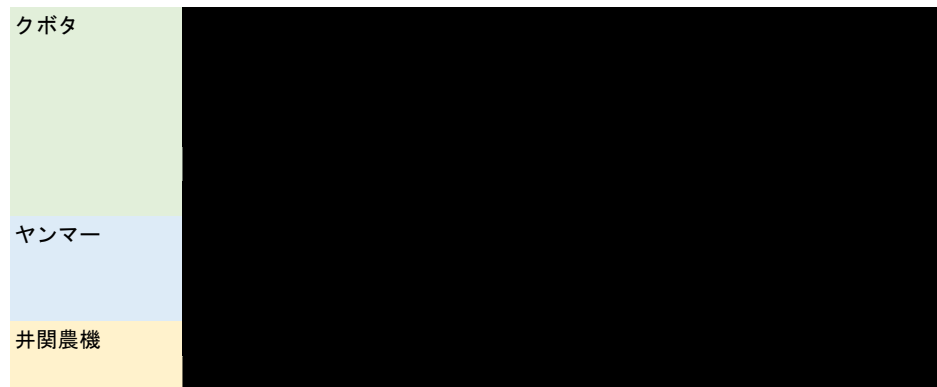
<国内販売・エンジン出力クラス別販売実績>

クラス	2019暦年		2020暦年	
	販売台数	構成比	販売台数	構成比
20ps未満				
20～40ps未満				
40～100ps未満				
100ps以上				
合計				

【輸出】

- 輸出販売は、国内販売と同様にコロナ禍から需要が低迷した。他地域は、日本同様にコロナ禍から需要が低迷した。

3. 主要メーカーの海外生産拠点



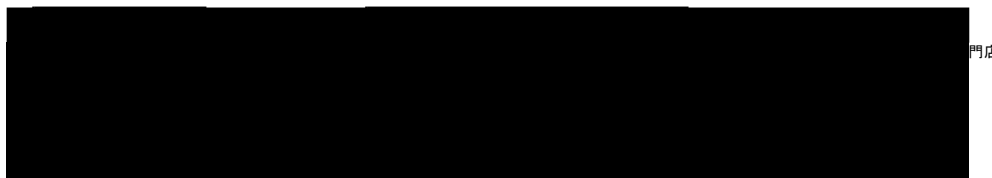
5. 世界市場規模推移

※最新2020暦年実績は別冊発刊「2021世界市場規模マーケットデータ」（有料）に掲載を予定しています。

	2017暦年		2018暦年		2019暦年	
	台数	構成比	台数	構成比	台数	構成比
海外市場						
日本市場						
合計(世界市場)						



4. ルート別販売比率（2020暦年国内販売）



○ [redacted] は
異なり、年間の稼働期間が長い為、総体的にレンタル需要が少ない。

6. 主要参入企業

企業名	本社所在地	TEL
井関農機(株)	東京都荒川区西日暮里5-3-14	03-5604-7602

